第11編

斧類

▼おの類（斧類）。左から、ちょうな（釿）、ふくろや（袋矢 割製材用の鉄楔）、だいくよき（大工与岐）。柄の短いのは手じょんな、刳鉢用。その下、下駄屋の、なた（鉈）。残りの3丁は、わりなた（割鉈）で、上はへぎ板を作るもの、その下の反りのある割鉈は桶職用。

第95章　斧

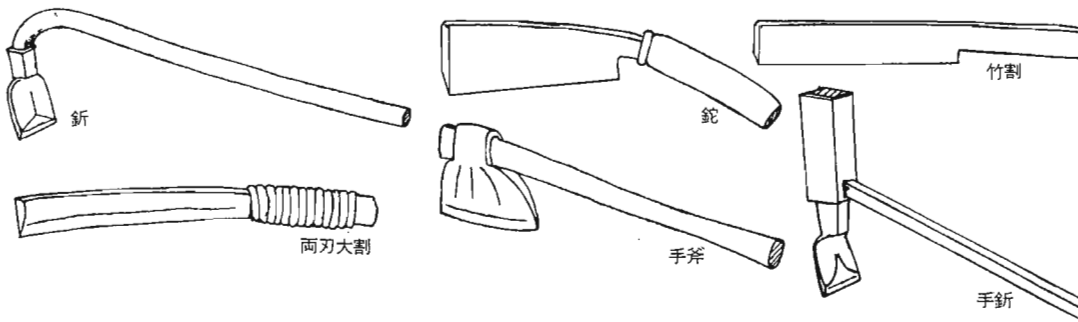
斧には、杣用斧・大工斧・船大工斧・片手斧などがある。形は第136図に見られるようなものである。刃は両刃で楔形の断面になっていて、刃物の自重を利用して、木材を削ったり割ったりするのに使う。柄はほかの工具と違い、刃の背部に刃先に平行して設けられた箱形の孔に合せてすげる。使用中の衝撃によって斧が脱落しないように、柄の手もとの方を細く作って、斧の先方の穴から挿し通して固定する。

斧類は、最近は製材木工機械の発達によって昔のように広く使われていないが、木材を急速に多く削り減らすには、もっとも簡便な工具である。

第96章　鉈

鉈は第136図に示すようなもので、各地方や用途によって多少形が違う。刃には片刃のものと両刃のものがある。用途は、桶職・屋根職・竹細工などに使われる。そのほか山間部や農家の家庭用工具としてなくてはならないものである。

第97章　釿

釿には、大工釿・舟大工釿・手釿などがある。第136図にあるようなものである。大工釿は、長い湾曲した柄の先端に図示のような刃物を取り付け、大きな材面を水平に釿る工具である。握柄は槐の適当な太さ（径１寸位）の曲木を使い、楔を使って刃を取り付ける。刃は取りはずしができる。手釿は図のようなもので、片手で使う。おもに下駄工・三味線・木型工・唐木細工・挽物工・彫刻師・象牙細工などの荒取に使われる。

第136図　斧各種